

あますなく拓きゆく道

(昭和十七年大東亜戦争頌歌)

切替辰哉君 作歌
池田政晴君 作曲

一

あますなく拓きゆく道
天雲の向伏す極み
地の涯ゆ、征かむ御楯と
大詔もち、我等日の族
源泉のごと湧きたたむ
誇らかに諸声に
血潮流さむ

三

どよめきぬ祖霊の行
六合に顫く漲ぎり
天津日は紅燃ゆる
南方圏の洋路遙けく
秀麗しき創成の神意
重く負ふに務めして
生命たぎちむ

五

帰るなき発程に起つ
眸澄める我等若人
皇国の道に挺身まん
諸共に雄叫びすれば
叫び和す新潮の声
抒情清か、白鳥の
海図に夢む

二

悠久の天詔琴
今ぞ時、轟き赴きぬ
高光り剣を植えて
荒魂の魂にぞ生きむ
遷るべく遷る亜細亜の
峻しかる大いなる
秋に生れし

四

欣求の宇宙蝕変満つも
東亜の空、復円光らん
斯くせずばやまぬ宿命と
十億の健剛を構みて
国挙り歩みゆくなり
熱涙もて仰がなむ
黎明の幸星

六

敵かの時の流れに
新しき力よ躍れ
鮮けき鬨りの中に
新しき叫よ拳がれ
胸臆朗ら、身を透けて佇つ
揺ぎなく、鍛へして
先駆に埋めん

七

こぞ茲、いかで忘れむ
日に若き、恵迪の児よ
たどり得し道の感喜
溢れつつ、ほの認めけむ
仰ぎ見る銀漢のほとり
真実もて、弥生ひに
継ぎて行かなむ